

《専門教育科目 専門応用科目》

科目名	こども音楽療育概論				
担当者氏名	児玉 達郎				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択必修	開講年次・開講期	4年・秋期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 専門応用-4 発達の深い理解 ◎ 専門応用-5 指導・保育の専門性				

《授業の概要》

音楽療育の意義と援助方法を学び、療育的な音楽活動の中で、障がいのある子どもの発達能力を出来るだけ有効に育てあげ、自立に向かって育成するために、音楽の持つ様々な働きをどのように活用していくべきか、基礎・専門知識を学習する。音楽療育に必要な曲の選び方・曲の作り方（簡易な作曲編曲）を学習し、実際の療育的な音楽活動の様々なモデルについて学習する。

《授業の到達目標》

- ・障がいのある子どもの音楽療育で必要となる基礎・専門知識を説明できるようになる。
- ・能動的音楽療育における作曲の理論を学び、作曲や編曲ができるようになる。
- ・受動的音楽療育で使用する曲を、子どもの状態に応じて選曲できるようになる。

《成績評価の方法》

平常点 30%
 期末試験（筆記試験） 70%

《テキスト》

二俣泉・鈴木涼子・作田亮一 2011 「音楽で育てよう 子どものコミュニケーション・スキル」春秋社

《参考図書》

参考書：適宜紹介する。
 資料：必要に応じて配布する。

《授業時間外学習》

音楽療育に関するプリントを授業で配布するので、その復習をする。
 授業で紹介する音楽（受動的音楽療法で使用する曲）を鑑賞する。

《備考（教員経験の有無）》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容
1	音楽療育についてのオリエンテーション	音楽療法とは何か。音楽療育の歴史と成り立ち。音楽活動の分類。音楽が心に与える影響について（1）。
2	音楽療法と音楽療法以外の音楽活動の違い	音楽療法と音楽療法以外の音楽活動の違いについて。音楽療育で使用される用語。コミュニケーションの育ちと音楽。音楽が心に与える影響について（2）。
3	同質の原理	心理的な働きにおける同質の原理。 音楽は、なぜ子どもを動かすか。
4	受動的音楽療法で使用する音楽の選び方	受動的音楽療法のための楽曲分析の方法。 言葉によるイメージの分類。楽曲を物語に置き換える。
5	クラシック音楽と音楽療法の歴史	受動的音楽療法で 사용되는機会の多いクラシック音楽と音楽療法の歴史。
6	音楽の心理的作用	音楽の心理的作用。 音楽療法のセッション（1）「気づく」。三項関係について。
7	音楽の生理的作用 音楽の社会的作用	音楽の生理的作用。音楽の社会的作用。音楽と身体運動の関係。 音楽療法のセッション（2）「眼差しの共有」。発達障害について
8	音楽療育の計画手順	アセスメント、目標設定、セッションの形の検討、プログラム内容の検討、音楽療育の実施、観察・記録、評価について。音楽療法のセッション（3）「要求」。
9	個々の子どもに合わせた活動	個々の子どもに合わせて活動を考える。 音楽療法のセッション（4）「みわける・ききわける」。
10	音楽療育士としての職業倫理	日本音楽療法学会の倫理についての手引き。 音楽療法のセッション（5）「まねをする」。
11	セッションの実施について	セッションの実施について。
12	曲づくりの基本（1） 歌曲（1）	能動的音楽療法のための、モチーフの原型を使った旋律の作曲技術（1）。 歌詞のついた曲について（1）。
13	曲づくりの基本（2） 歌曲（2）	能動的音楽療法のための、モチーフの原型を使った旋律の作曲技術（2）。 歌詞のついた曲について（2）。
14	曲づくりの基本（3） 歌曲（3）	能動的音楽療法のための、モチーフの反行型を使った旋律の作曲技術。 歌詞のついた曲について（3）。
15	音楽療育のまとめ	コミュニケーション能力を育てる音楽療育について。 能動的音楽療法と受動的音楽療法について。